

会員の皆様、こんにちは。

北朝鮮との間に緊張が高まっていたましたが、ここへきて北朝鮮から各国に対話の姿勢を示すようになってきたことが連日報道されています。刻一刻と変化する国際情勢ですが、キューバはアメリカと断絶していた国交を54年ぶりに回復させたのも皆さんの記憶に新しいでしょう。

さて、今日は識者から「キューバ共和国の情勢」というテーマでご寄稿頂きました。石田議員も、昨年所属していた議院運営委員会の視察でキューバを視察し、キューバの歴史や情勢について肌身をもって感じてきました。

是非ご一読ください。

石田まさひろ政策研究会

キューバ共和国の情勢 ～社会主義国家の新たな転換期～

■ キューバ共和国概況

カリブ海の真珠といわれるキューバは、フロリダの南約145kmに横たわる、東西に延びる細長い島。全長は約1250km、面積は日本の本州の半分に当たる約11万1000km²。本島のほか1600余りの島や岩礁からなる、カリブ海最大の島国。人口は東京都と同じ約1124万人。1959年のキューバ革命以降、共産党を社会および国家の最大の指導勢力とする社会主義国家。

■ 政治・経済・外交

議会制度は「人民権力全国会議」「国家評議会」「キューバ共産党」から成る。国家評議会は国家を代表する最高指導機関であり議長は国家元首となる。また、キューバ共産党は社会および国家の最高指導勢力と位置付けられている。キューバ革命を兄のフィデ



フィデル・カストロと共にキューバ革命を成功させた
チェ・ゲバラの壁画（革命広場）

ル・カストロと共に率いたラウル・カストロは国家評議会議長、かつ、キューバ共産党第一書記であり、名実ともに国家を代表する人物である。

経済面では社会主義国家であるが故、国営セクターを中心とする計画経済を徹底している。国民皆平等の精神が継承されており、医療・教育は全額無償。物を大事にする文化が根付いており、首都ハバナの至る所でクラシックカーを見ることが出来る。



クラシックカーと青い空（首都：ハバナ）

外交面では国際的に医師派遣等を通じて途上国や非同盟諸国に大きな外交的影響力を持ち、紛争の仲介を行うなど独自の存在感を発揮し続けている。更に、2015年には1961年から断交していた米国と国交を回復したことにより、世界中から大きな注目を集めている。

■ 今後の情勢

キューバは大きく3つの観点から大きな変革期を迎えている。

第一に、近い将来の世代交代が挙げられる。2016年に長らく国家評議会議長として国家元首を務めていたフィデル・カストロが死去し、その後を継いだ弟のラウル・カストロが2018年4月に引退する。革命世代から世代交代が進むことで、改革の進展が期待される一方で、中長期的には体制が不安定化する可能性がある。

第二に、米国との関係の変化である。オバマ政権下で改善した米国との関係も、依然多くの懸案が残されていることに加え、トランプ政権が関係の見直しに着手しており、両国の関係性は不透明感を増している。

第三に、経済改革の進展である。キューバはソ連崩壊後、ベネズエラに経済的依存をしてきたが、ベネズエラ経済の不安定化によりキューバ経済も停滞を余儀なくされている。これを打開するために経済改革を進めているが、現時点で大きな成果には至っていない。キューバは医療・教育分野に力を入れており、識字率が高く、良好な治安、膨大な開発ニーズが存在するものの、今後の発展には更なる経済自由化・開放化が不可欠である。

一方、日本との関係においては、2016年9月に安倍総理が現職の総理として初めてキューバを訪問し、400年以上にわたる両国の友好の歴史に新たなページが開かれた。首脳会談ではラウル・カストロ国家評議会議長と初の首脳会談を行い、幅広い分野における、パートナーシップの強化を確認した。

今後は、経済関係の強化に向けた官民を挙げた取り組みや膨大なインフラ需要に対応する経済協力の本格化が見込まれるほか、外交戦略上も国際的影響力の大きいキューバとの関係は、保護主義化の傾向を強める国際社会においてますます重要性となり、大きな転換期を迎えることとなる。



カリブ海の真珠と呼ばれるキューバのビーチ（バラデロ）

著者：KK